

私のクラブの  
“オリジナル”

## 東大阪市老人クラブ記念歌 「伝えてナンボや！」

大阪府東大阪市老人クラブ連合会

市老連は昨年4月に創立50周年を迎え、その記念事業の一環として記念歌「伝えてナンボや！」を作成しました。幸い親類が会員にいたことから、作成は「喝采」「北酒場」などで日本レコード大賞を受賞されたこともある作詞・作曲家の中村泰士先生にお願いできました。

歌は明るく、口ずさみたくなるメロディーで、高齢者は若い人に自分の経験を伝えてナンボや！という熱いメッセージのこもった歌詞になっており、この



歌のおかげで市老連の結束力・士気が上がりました。

今後市老連が60年、100年と続いていくように大切に歌い伝えていきたいと思えます。

### みんなのひろば

#### 市老連で始めた 介護支援ボランティア

福岡県小郡市  
老人クラブ連合会  
女性部副部長 武富泰子

市老連ではここ数年の会員減少、休会クラブの増加に危機感を抱き、市の関係者と一般の方にも参加いただいて、「小郡市老連の明日を考える会」を立ち上げて対策の検討を始めています。

そのような中、平成28年度から市老連で新しい事業に取り組んでいます。市内の病院から、元気な老人クラブ会員に施設の有償ボランティアとして協力いただけないかという提案があり、それを受けているのです。内容は、デイサービスの補助、施設入所者の話し相手をするなどです。

会員の中には、遊びやすポイントだけでは物足りない、まだま

だ人様のお役にたちたいと考えている方が大勢おられます。市老連ではそんな会員に声をかけて、協力いただくことにしました。発足までは紆余曲折がありましたが、1年を過ぎた現在では、サロンの手伝いもするなど活動の幅を広げており、ボランティアは楽しそうに活動しています。施設の方の評判も上々です。

この事業を始めてから、老人クラブへの印象が変わってきたように感じます。歳を重ねても元気な人が多いのです。他から必要とされるのを励みに、自分もまた若返ったような気分が高まってきました。

老人クラブは、各個人の持つ能力を引き出す力があると感じております。

高齢者の雇用が促進され、支援する者、それを必要とする者が相携えて生きていくことこそ、輝く社会を招来することと信じています。